

シールラベルコンテスト

受賞企業に聞く

(一社)日本印刷産業連合会会長賞 丸信

丸信(福岡県久留米市山川市ノ上町、平木洋二社長、☎0942・433・662)は、全日本シール印刷協同組合連合会(田中祐会長)主催の「第27回シールラベルコンテスト」で自由課題(複合)と規定課題(レタープレス)の2作品が(一社)日本印刷産業連合会会長賞を獲得した。前回に引き続きこの受賞となる。コンテスト受賞作品で採用した技術やこだわった点を、シール印刷課の吉本武士主任に尋ねた。

(内田)



吉本武士主任

自由課題「リオートーン」をスクリーン印刷で

規定課題は酸化重合インキ採用

「当社では今回から「新技術委員会」が中心となり、4年連続受賞となるなど数々の輝かしい賞を獲得しています。作品応募にご理解いただいたブランドオーナーや賞機メーカーの皆さまには、深く感謝しています」

「当社では今回から「新技術委員会」が中心となり、コンテストに臨む体制へと変わりました。当委員会は昨年発足した組織で、各部門から集まった8人で構成されています。活動内容は、高品位・高付加価値ラベルの製造を目指して新たな技術を取り組み、確立すること。すでに新技術に基づいて製造したラベルの採用実績もあります。コンテストに対しては、当委員会が中心となり、技術に優れたラベルを複数選出しました」

「受賞した自由課題で採用した技術の説明を、印刷課は、表現の幅を広げるのに役立つため、ブランドオーナーから好まれる傾向があります。当社としては今回の受賞をPRポイントとして、今後も技術力を高めつつ、提案の幅を広げていければと考えています」

「規定課題で苦労した点と克服のアイデアは、「オフセット印刷による色見本で直感したのが『青色の再現性』でした。UV印刷は瞬時にインキが硬化するため、色を重なる上で優れた効果を発揮しますが、一方でピンホールが発生しやすく、加えインキの塗膜表面がややマットになる傾向があり、思い通りの色を再現するには難しいと色を再現する。そこでコンテスト作品は、UVインキではなく酸化重合インキで印刷しました。当社は15台ある平庄機のうちUV仕様はわずかに3台であり、実は酸化重合インキで印刷する場合が多いのです。また私自身、UVよりこちらの方に慣れていたことも、理由に挙げられます」

「実際に印刷して、自信を感じましたか」

「いや、まったく(笑)。当社として連続受賞がかかっているだけに、個人的にフレッシュさを感じていました。4回(び)チャレンジし、最後は締め切り間際で提出したはずです。それだけに、受賞の報告を受けた時はひと安心、というのが正直なところです」

「貴社にとってシールラベルコンテストとは」

「年に1回、自社の技術レベルを正確に把握できる絶好の機会であり、また個人的には、取り組んできた



自由課題「複合」(上)と規定課題「レタープレス」の作品

「印刷課は「複合」で、実際に大分県の焼酎メーカーに採用されたラベルです。当作品のテーマは「オフセット印刷の可能性」。オフセット間欠機によるカラー4色十特色を耐水耐油基材のラベルに印刷した後、SMAG製のスクリーン機

新技術の成果を誇る場でも多く感じています。今回もその受賞という結果を幅広くPRすることで、当社の技術力をブランドオーナーにご理解いただくことなるほか、他の新技術に関しても提案しやすくなるでしょう。また、若手オペレーターへの技術継承といった面でも有益では。そのような観点から、当社としてはこれからも、コンテストに対して積極的に参加し、今回以上の成果を得られるように努力を継続したいと考えています」